

第2章 宮代町の現状と課題



- I まちづくりに係る社会潮流
- II 現状と課題
- III 住民意向
- IV まちづくりの主要課題と対応方向

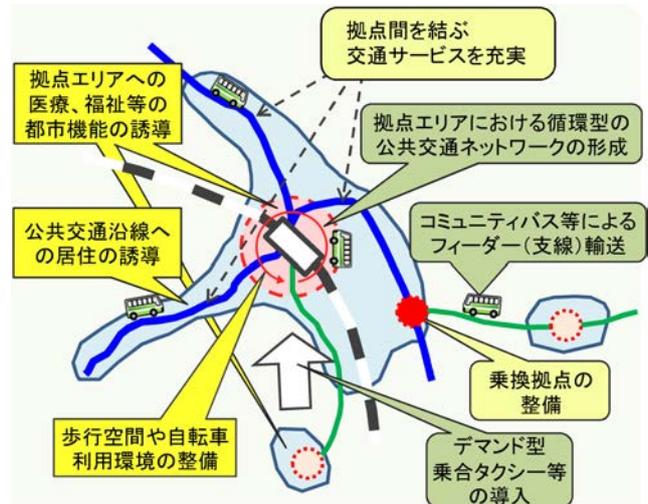
I まちづくりに係る社会潮流

《コンパクト・プラス・ネットワークの推進》

○ 都市の魅力や賑わいを生み出す商業・業務、医療・福祉施設などの都市機能は、その利用者が一定の範囲に集積することで維持されてきました。人口減少や少子高齢化が進行する中で、市街地が拡散し低密度化が進んでしまうと、これらの都市機能を将来にわたって維持していくことが難しくなります。

○ そのため、限られた資源を集中的・効率的に利用し、持続可能な都市づくりを実現するための方策として、市街地の無秩序な拡大を抑制しながら、都市機能を既存市街地の各拠点に集約し、それらの拠点を公共交通などによってネットワークした「コンパクト・プラス・ネットワーク」によるまちづくりが推進されています。

■ コンパクト・プラス・ネットワークのイメージ



出典：国土交通省

《SDGs (持続可能な開発目標) の推進》

○ 「SDGs」は、平成 27 年 (2015 年) の国連サミットで採択された令和 12 年 (2030 年) に向けた国際的な社会開発目標で、持続可能な世界を実現するための 17 のゴールと 169 のターゲットで構成されています。地球上の誰一人として取り残さない社会の実現に向けた世界共通の行動目標となっており、まちづくり分野においても持続可能性に配慮した取組が求められています。

■ SDGs の 17 のゴール



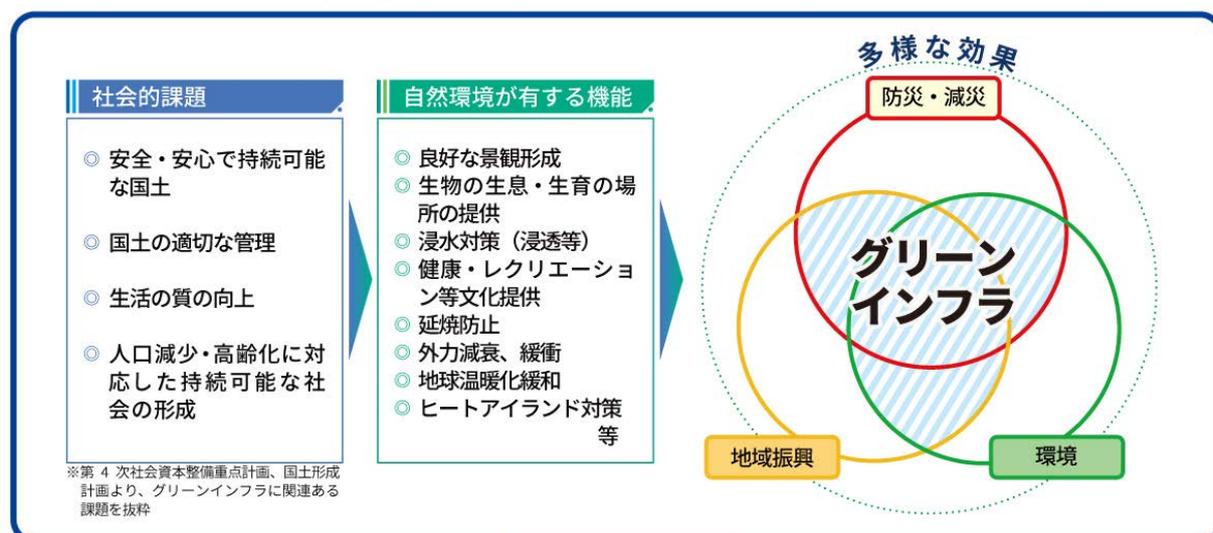
《国土強靱化の推進》

- 地震や台風、集中豪雨など、激甚化する自然災害を踏まえ、人命を守り、いかなる事態が発生しても機能不全に陥らない経済社会のシステムの確保に向けて、平時からの備えを重視した「国土強靱化」（いかなる災害等が発生しようとも、人命の保護が最大限に図られ、国家及び社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持され、国民の財産及び公共施設に係る被害の最小化と迅速な復旧復興を基本とした「強さ」と「しなやかさ」を持った安心・安全な国土・地域・社会経済の構築）に向けた取組が求められています。

《低炭素型まちづくり・グリーンインフラストラクチャーの推進》

- 低炭素・循環型社会の構築に向けた「低炭素型まちづくり」や自然環境が有する多様な機能を社会における様々な課題解決に活用する「グリーンインフラストラクチャー」の推進など、環境への負荷に配慮したまちづくりが求められています。

■ グリーンインフラの考え方



- 防災・減災や地域振興、生物生息空間の場の提供への貢献等、地域課題への対応

- 持続可能な社会、自然共生社会、国土の適切な管理、質の高いインフラ投資への貢献

出典：国土交通省

《技術革新を活用したまちづくり》

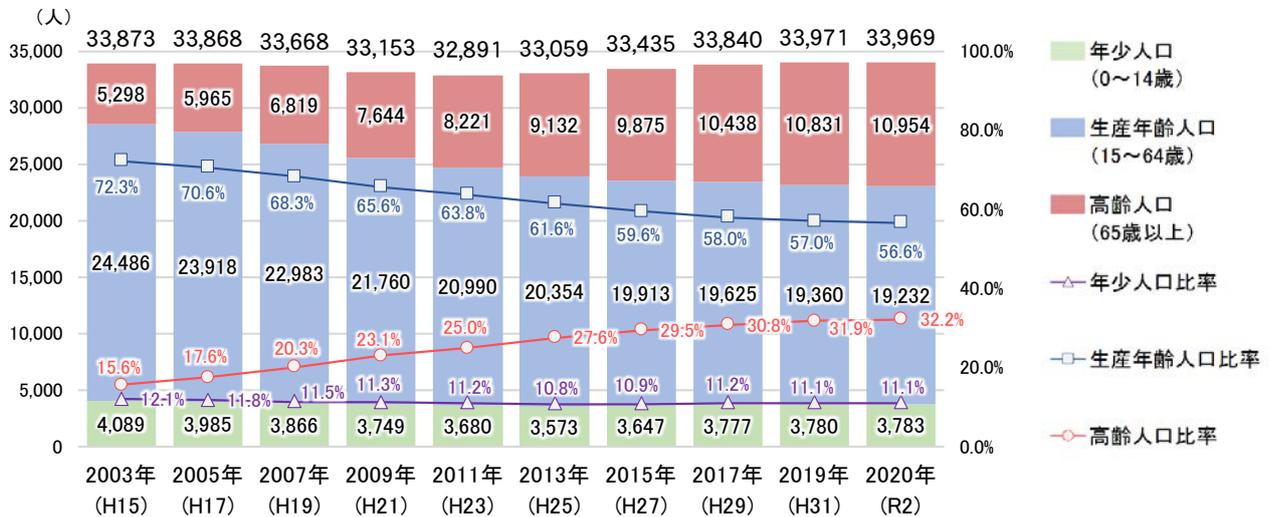
- インターネットやデジタル化の普及により、ICT（情報通信技術）やIoT（モノのインターネット）、AI（人工知能）、ビッグデータなどの技術革新が急速に進展しています。これからのまちづくりにおいては、これらの新しい技術を積極的に取り込みながら、適正なマネジメントと全体最適化による持続的な都市「スマートシティ」の実現や交通分野における自動運転システム、MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）などの新たなモビリティサービスの導入に対応していくことが求められます。

Ⅱ 現状と課題

《高齢化の進行と人口減少の到来》

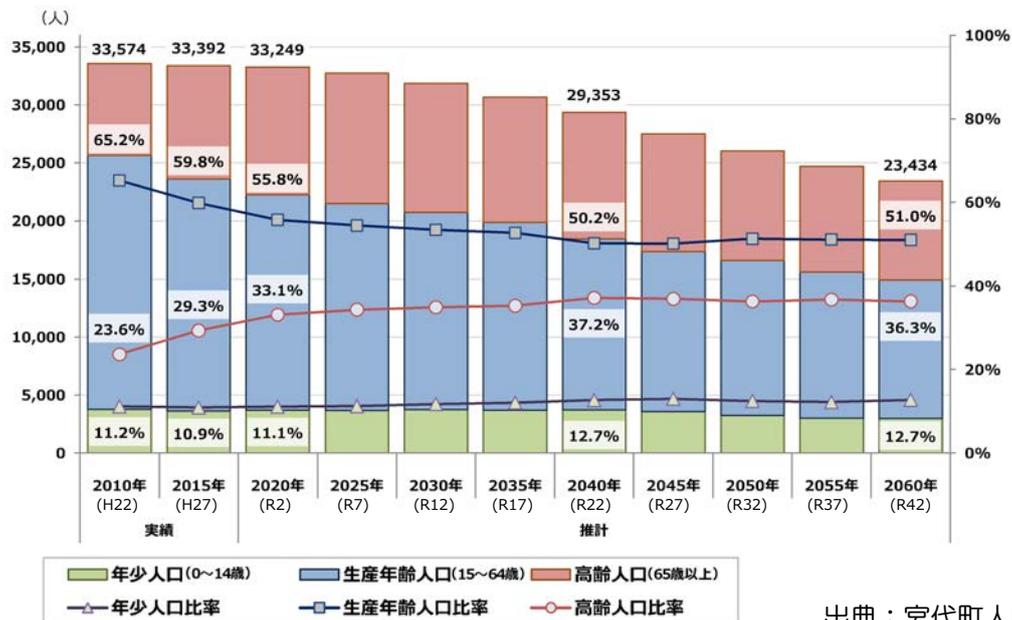
- 新たな住宅地の整備に伴う子育て世代の転入増加により、本町の人口は微増傾向にあります。一方で、65歳以上の高齢人口比率は、令和2年（2020年）時点で32.2%と年々増加しています。
- 平成27年10月に策定した「宮代町人口ビジョン」では、今後、本町の人口は減少へと転じ、令和22年（2040年）時点で29,353人、令和42年（2060年）時点で23,434人まで減少すると推計されていることから、定住人口の維持・確保に向けた取組が求められます。

■ 人口の推移



出典：各年4月1日時点の住民基本台帳（H24以前は外国人含まない数値）

■ 将来人口推計（宮代町人口ビジョンより）

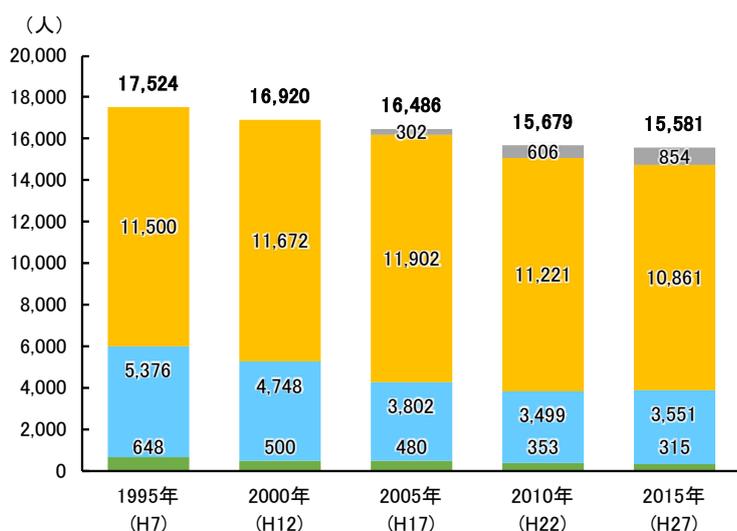


出典：宮代町人口ビジョン

《町内産業の停滞》

- 本町の就業者数は年々減少傾向にあります。各産業の生産力の向上に向けて、町内産業の活性化に向けた取組が必要です。
- 町内在住の就業者の70%以上が町外で就業しています。平成25年(2013年)の地域経済循環率は53.9%と周辺市町と比較しても低いことから、買い物や飲食の場の充実など、町内での支出増加に向けた環境づくりが必要です。

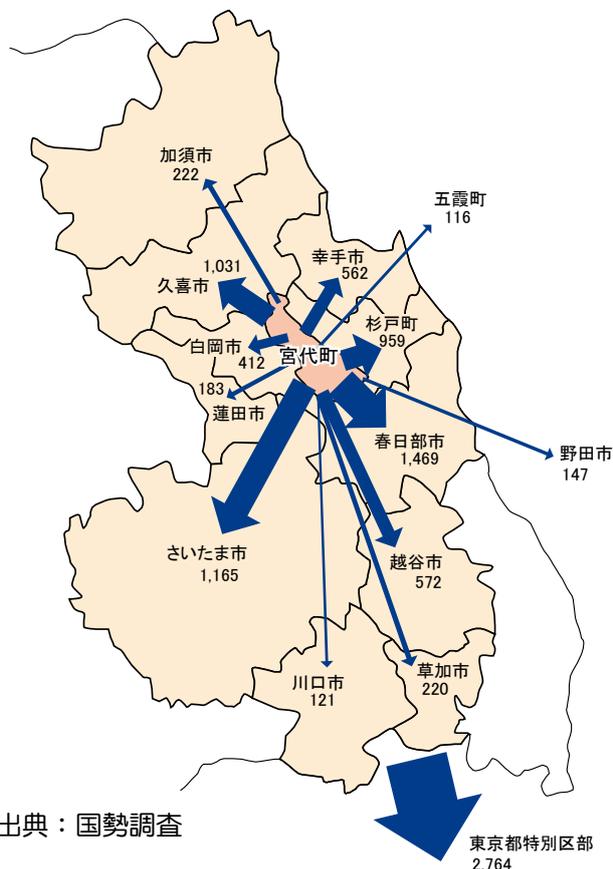
■ 産業3区分別就業人口の推移



第1次産業：農業・林業・水産業
 第2次産業：鉱工業・製造業・建設業など
 第3次産業：金融、保険、卸売り、小売、サービス業、情報通信業など

出典：国勢調査

■ 主な通勤先別就業者（平成27年）



出典：国勢調査

■ 地域経済循環率の比較（単位：%）

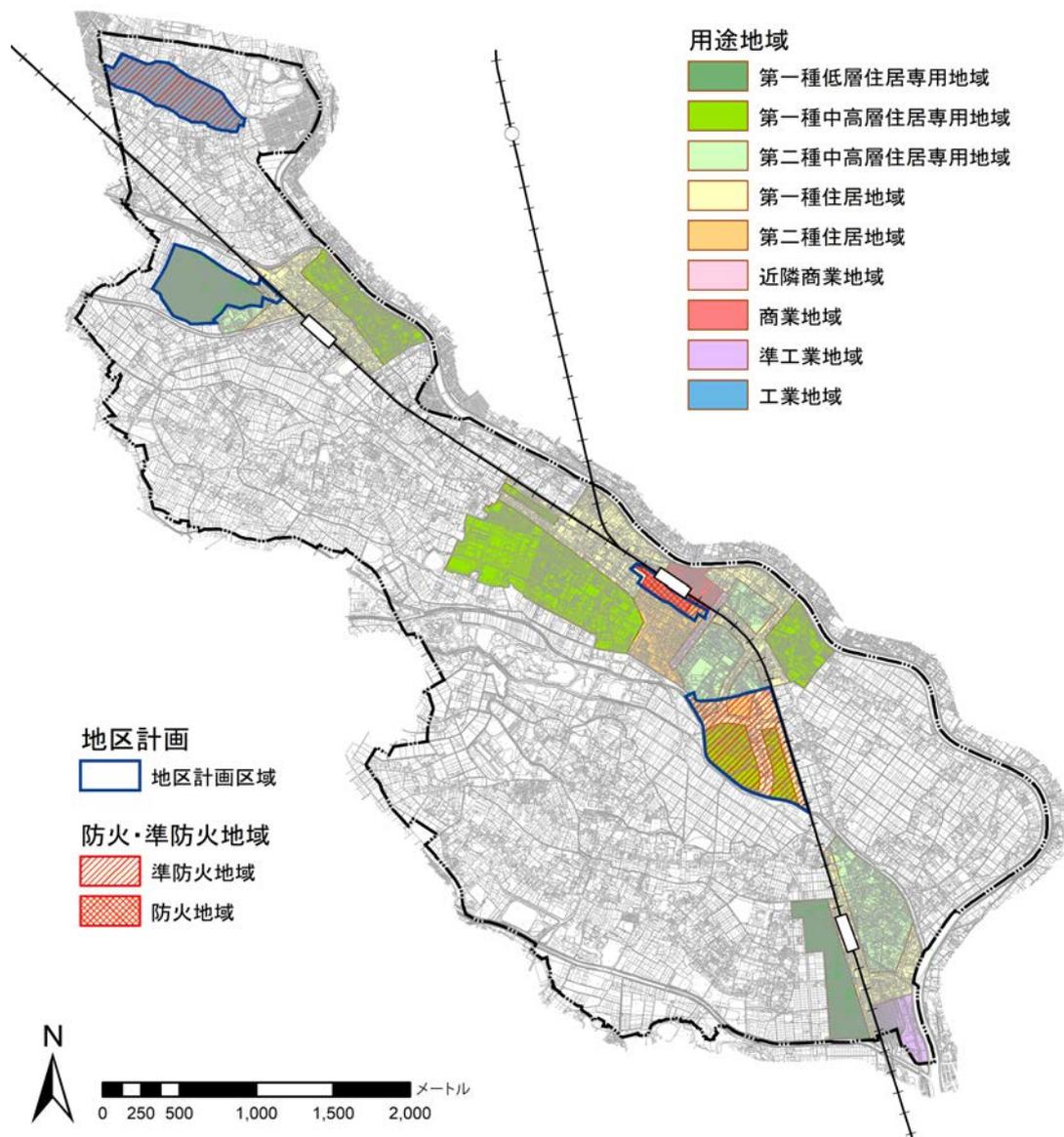
	2010年 (H22)	2013年 (H25)
宮代町	51.2	53.9
春日部市	62.2	62.5
久喜市	85.4	85.0
蓮田市	63.5	73.1
幸手市	70.3	74.6
白岡市	60.9	61.0
杉戸町	67.1	69.8

出典：RESAS 地域経済循環図

《既存市街地と郊外田園環境の適正管理に向けた対応》

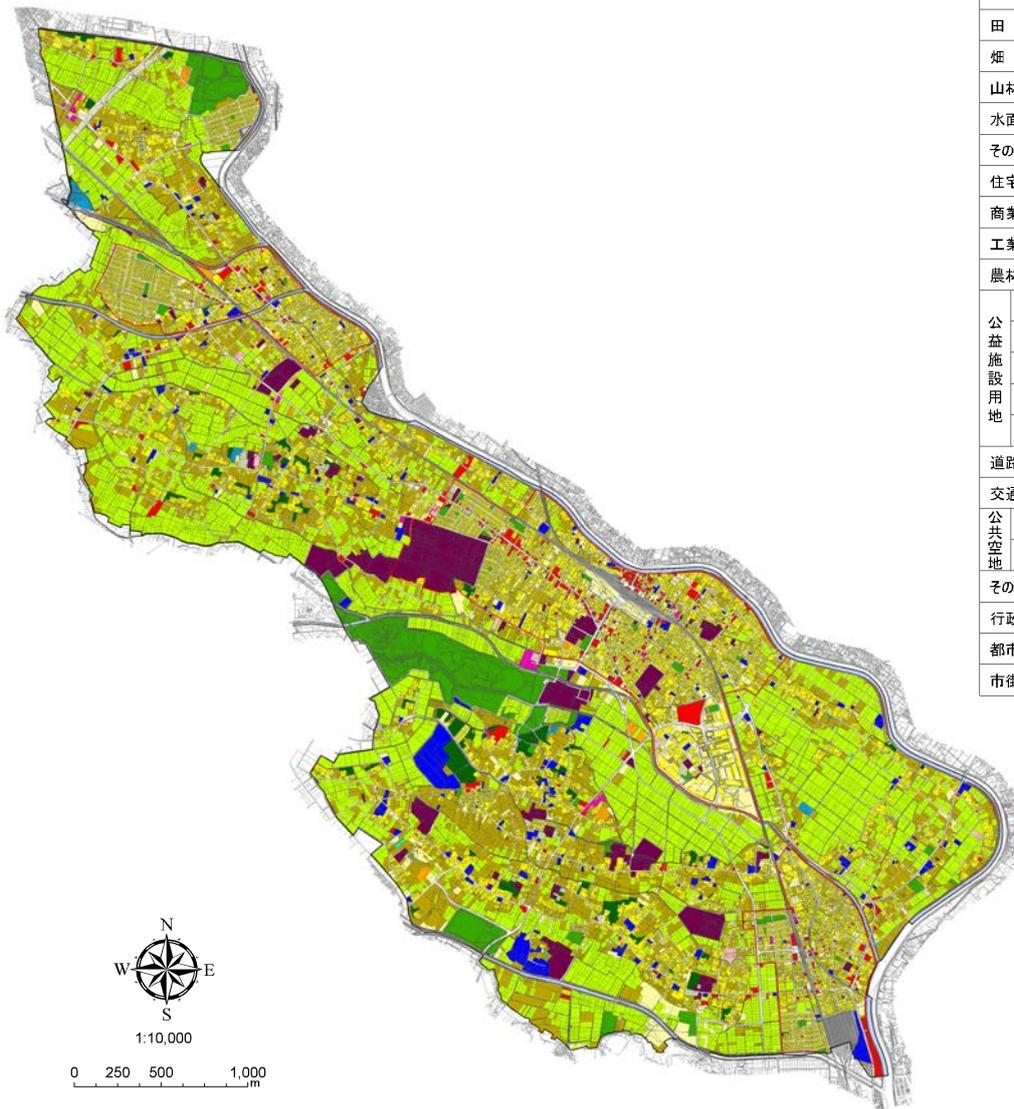
- 本町は、線引き都市計画区域となる「幸手都市計画区域」に全域が指定されています。区域区分に基づく土地利用が進められており、市街化区域では土地区画整理事業などの大規模開発によって、主に住宅を中心とした市街地整備が進められてきました。今後は住宅の老朽化や空き家の抑制に向けた対応が必要です。
- 市街化調整区域はほぼ全域が農業振興地域に指定されており、郊外に点在する既存集落の営農者が本町の農業生産を支えています。近年では耕作放棄地が増加傾向にあります。
- 本町の土地利用の動向を地目別にみると、過去 20 年間で「宅地」が 54ha 増加する一方で、「田」や「畑」が 65ha 減少しており、農地の宅地化が進んでいます。本町の特徴でもある豊かな田園環境の保全・活用に向けた取組が求められます。

■ 都市計画の指定状況



出典：平成 28 年度都市計画基礎調査

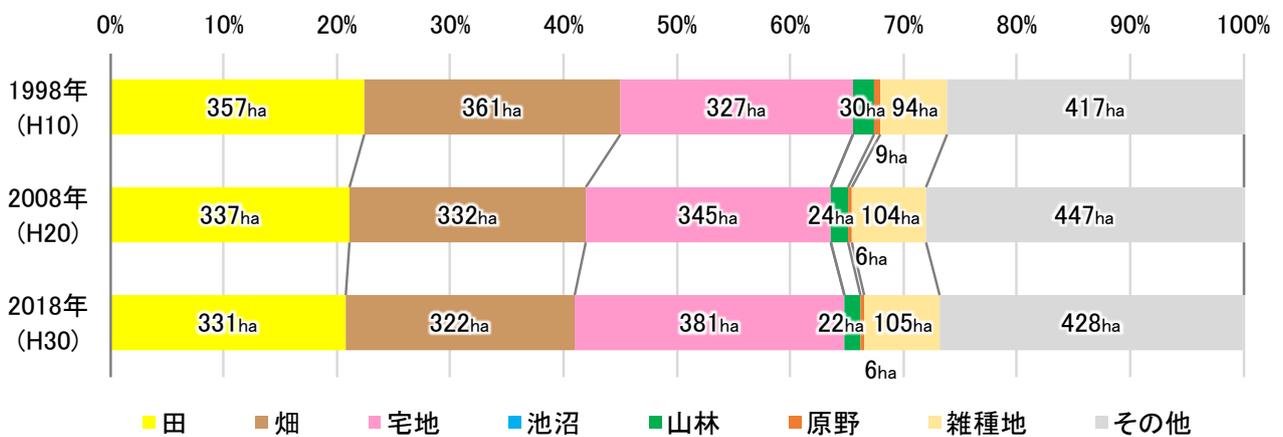
■ 土地利用現況図



凡例	
田	黄緑色
畑	茶色
山林	緑色
水面	水色
その他の自然地	茶色
住宅用地	黄色
商業用地	赤色
工業用地	青色
農林漁業施設用地	水色
幼稚園、保育所、病院、診療所、老人ホームを除く	紫色
幼稚園、保育所	桃色
病院、診療所	ピンク色
老人ホーム	オレンジ色
処理場、浄水場	水色
道路用地	灰色
交通施設用地	灰色
公園・緑地、広場、運動場、ゴルフ場	緑色
公共空地	緑色
墓園	緑色
その他の空地	黄色
行政界	黒線
都市計画区域界	点線
市街化区域界	赤線

出典：平成 28 年度都市計画基礎調査

■ 地目別面積の推移（平成 10～30 年）

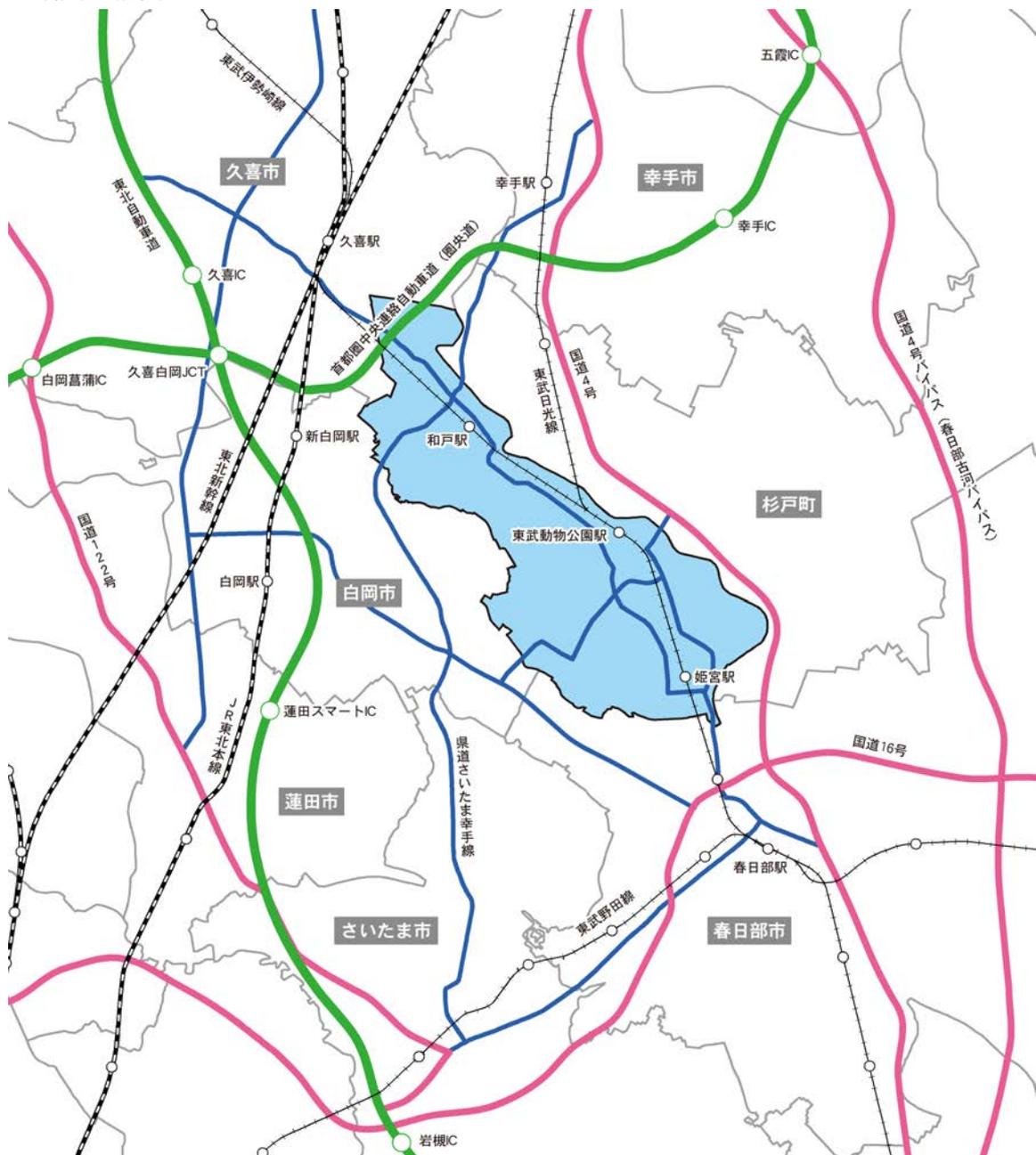


出典：概要調書を基に作成

《交通基盤・公共交通網の維持・充実》

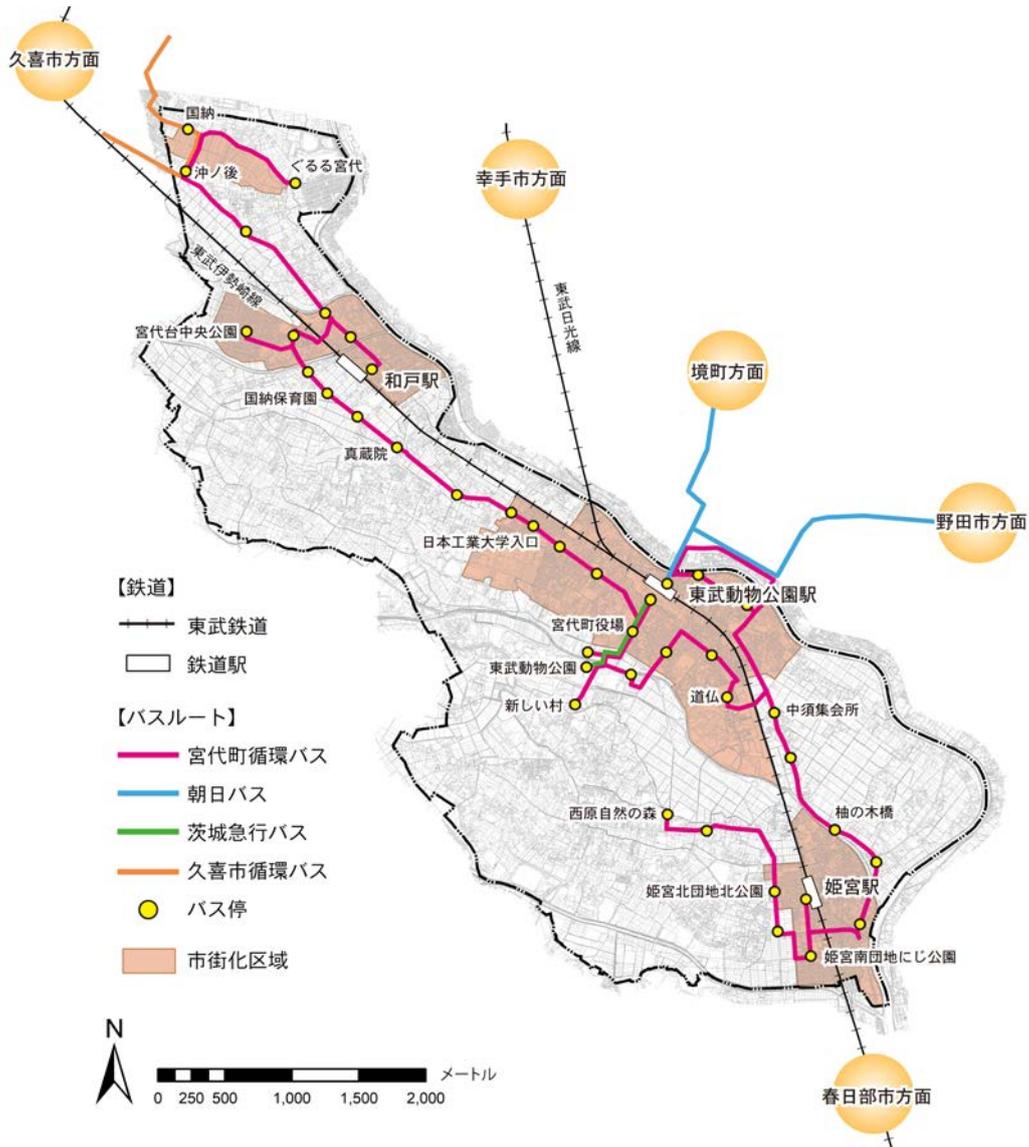
- 本町には東武伊勢崎線及び東武日光線が整備されており、都心部や栃木、群馬方面への広域的なアクセス網が確保されています。
- 道路網をみると、町内に整備されている県道はありますが、通勤時間帯の渋滞や周辺市町への接続も十分とは言えず、都市機能向上を図るには、広域ネットワーク道路の整備が必要です。
- バス網は「宮代町循環バス」や「久喜市循環バス」などの公営循環バスが住民の移動を支えています。町内全域のカバーは難しいため、新たな交通システムの導入の検討が必要です。

■ 広域交通網図



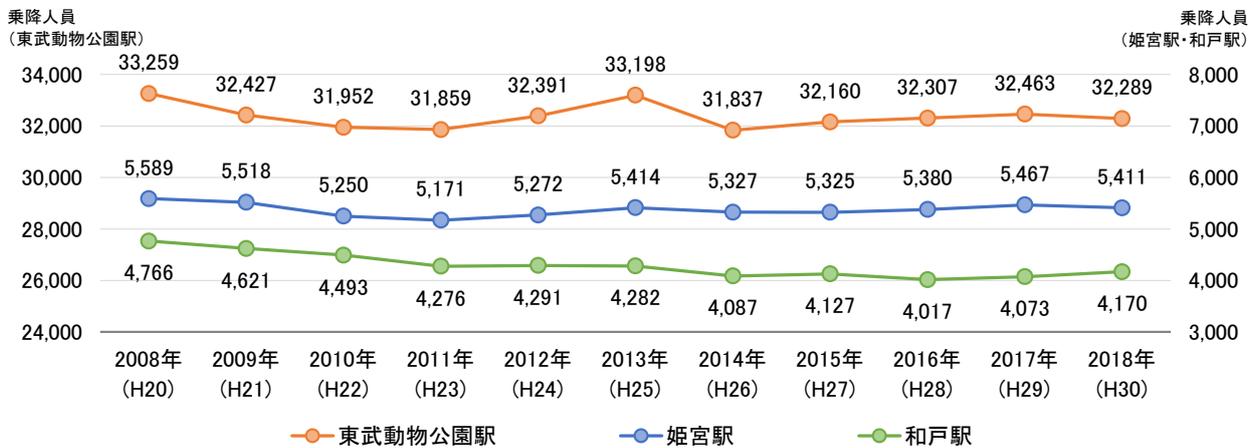
出典：宮代町資料を基に作成

■ 公共交通網の運行状況



出典：宮代町資料を基に作成

■ 鉄道駅の乗降客数の推移

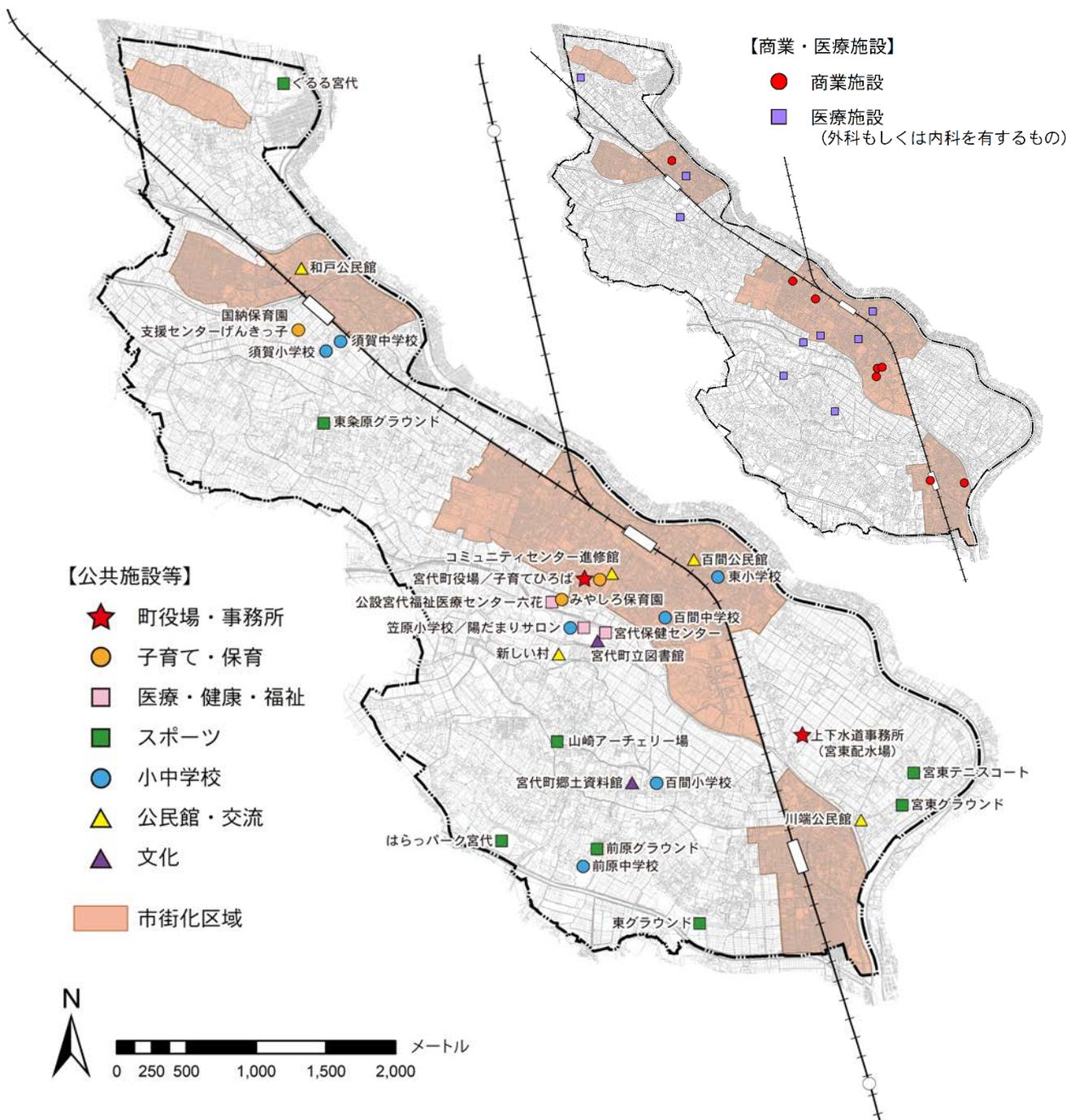


出典：東武鉄道（株）資料を基に作成

《都市基盤の適正管理・生活利便施設の充実》

- 町内には、上下水道や公共施設など、住民の生活を支える様々な都市基盤が整備されています。今後も施設の適正管理や長寿命化に基づく機能の維持・充実が必要です。
- 既存市街地や主要集落の徒歩圏内には、商業・医療・福祉などの生活利便施設が一定程度立地しています。将来にわたって定住人口を確保していくためには、生活に必要な諸機能を集約し、移動距離を小さくすることで、利便性の向上を図る、歩いて暮らせるまちづくりが求められることから、商業や医療など、新たな都市機能の立地誘導も必要です。

■ 主要公共施設、商業施設及び医療施設の分布図

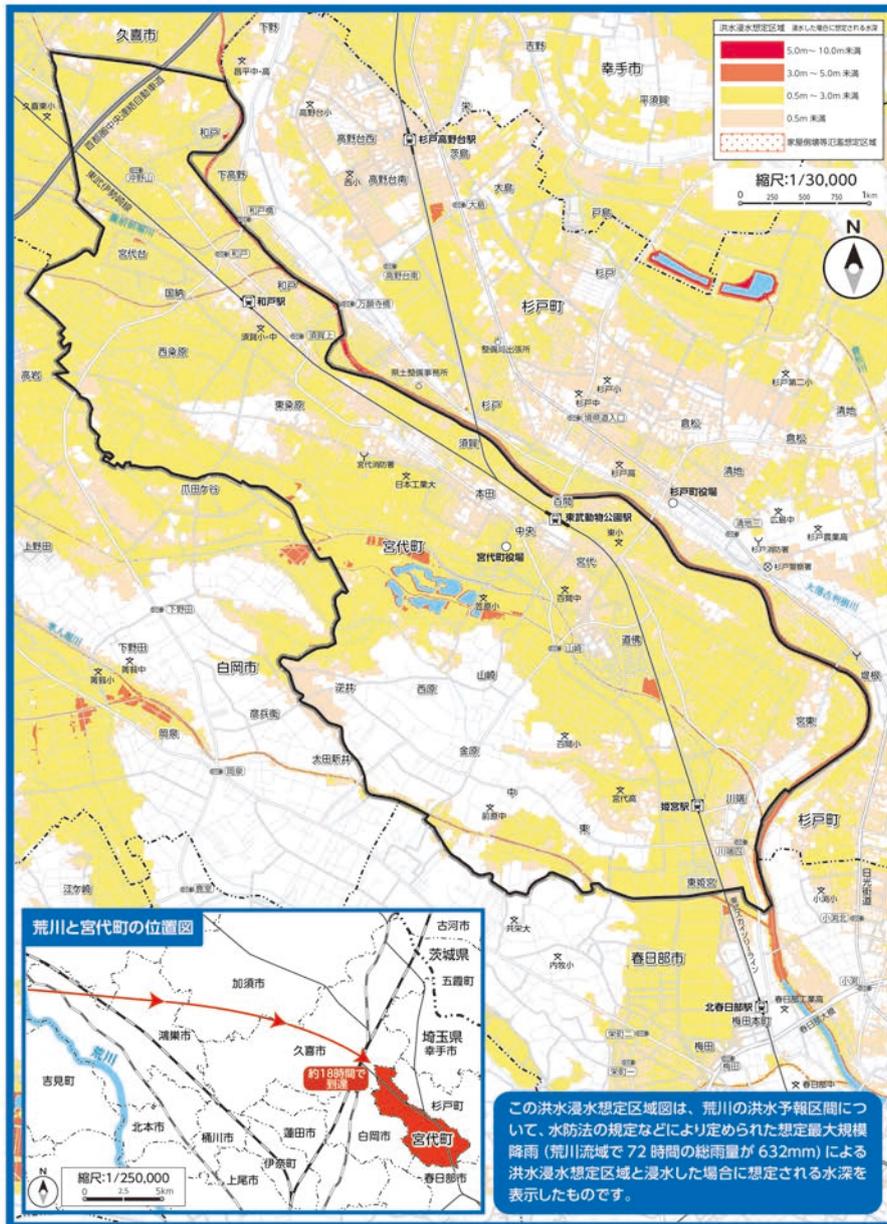


出典：宮代町資料を基に作成

《安心・安全な生活環境の確保》

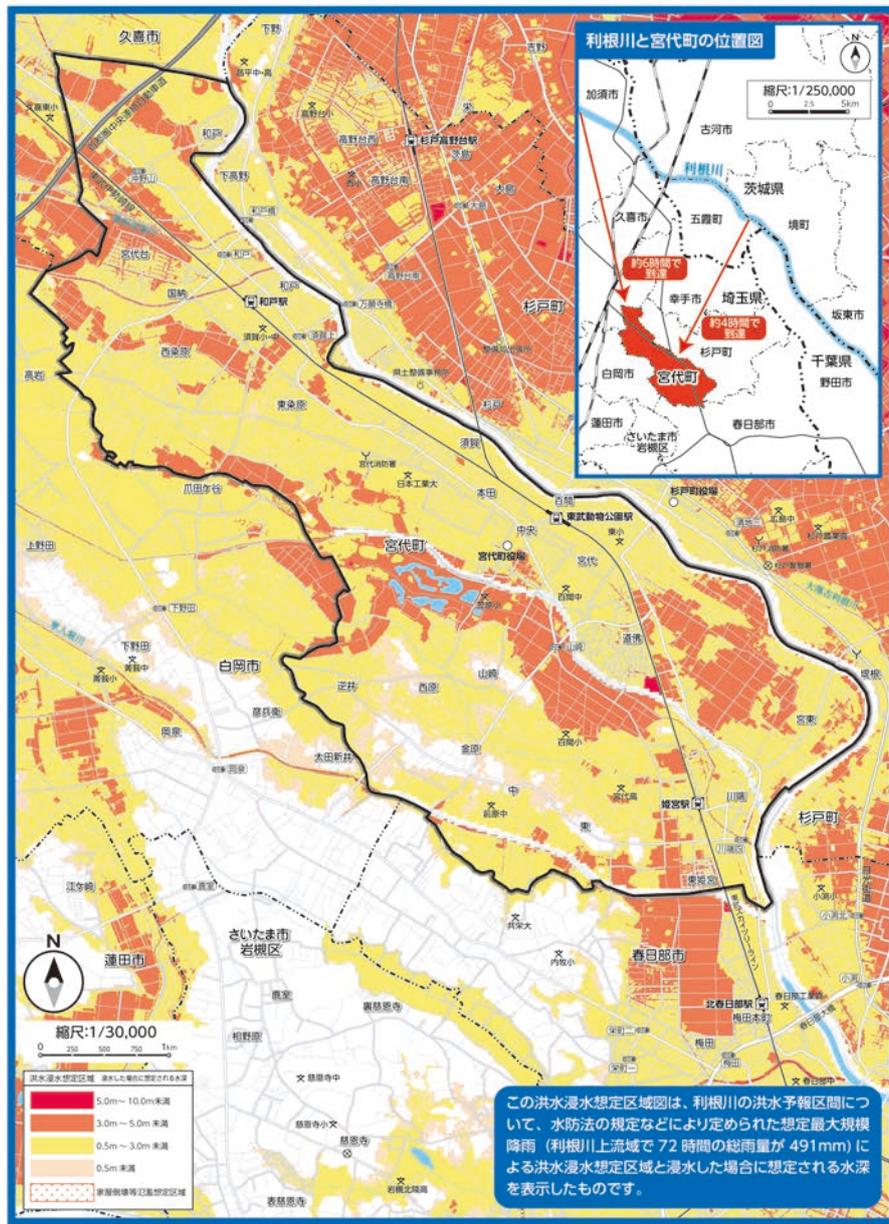
- 河川に接する地理的特性から、町内に浸水想定区域が指定されています。首都圏での大規模地震も予想される中で、安心・安全なまちづくりに向けた環境づくりが必要です。
- 本町では、住宅総数が減少する中で、人の住んでいない純粋な空き家の割合が増加しています。管理の行き届かない空き家・空き室の発生は、居住環境や治安の悪化などにつながるため、適切な管理や積極的な活用促進に資する施策の検討が必要です。

■ 浸水想定区域図（荒川）



出典：宮代町ハザードマップ

■ 浸水想定区域図（利根川）



出典：宮代町ハザードマップ

■ 空き家件数及び空き家率の推移

	住宅総数	空き家	
		賃貸用の住宅	その他の住宅※
2003年 (H15)	14,280	1,000 (7.0%)	490 (3.4%)
2008年 (H20)	15,150	1,240 (8.2%)	430 (2.8%)
2013年 (H25)	15,470	1,710 (11.1%)	310 (2.0%)
2018年 (H30)	16,150	1,080 (6.7%)	670 (4.1%)

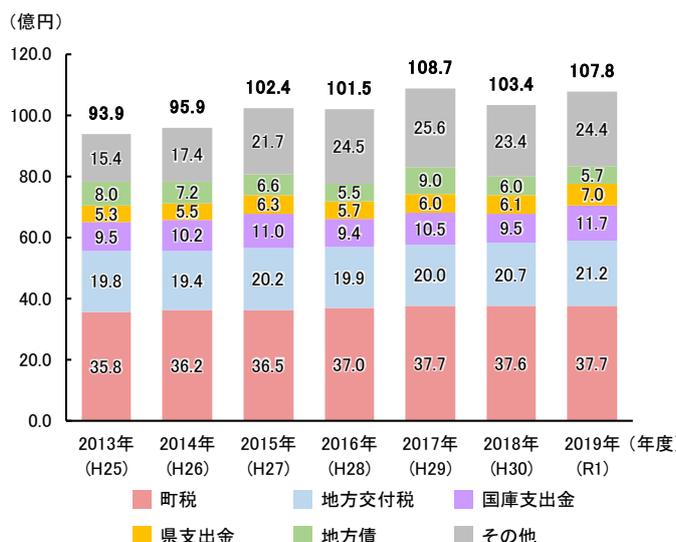
※ 別荘などの二次的住宅や賃貸用、売却用の住宅を除く、人が住んでいない住宅

出典：住宅・土地統計調査

《効果的・効率的な行財政運営》

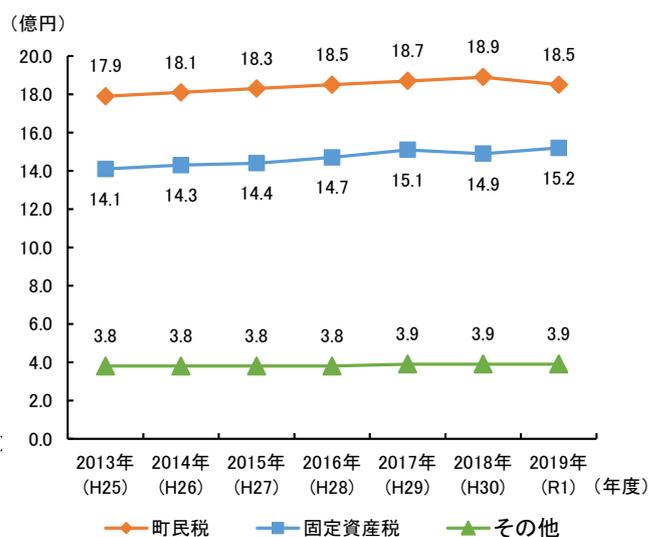
- 本町の歳入・町税は、平成25年度から増加傾向にあります。令和元年度の歳入は107.8億円で、そのうち町税収入が37.7億円で全体の35.0%を占めています。
- 歳出は、令和元年度で102.3億円と平成25年度から13.0億円増となっています。目的別歳出をみると、福祉関連の支出である民生費の伸びが高くなっています。
- 本町の歳入・歳出はともに増加傾向にあることから、引き続き、持続可能な都市経営に向けた安定した行財政運営が必要です。

■ 歳入の推移



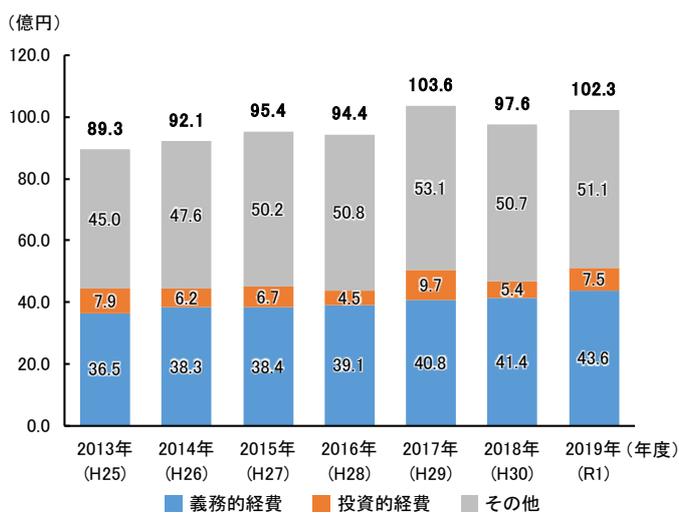
出典：総務省市町村決算カード

■ 町税の推移



出典：総務省市町村決算カード

■ 歳出の推移



出典：総務省市町村決算カード

■ 目的別歳出の推移

単位：千円

	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)
議会費	100,094	102,133	107,122	98,110	98,326	98,197	100,022
総務費	1,294,504	1,394,347	1,655,946	1,637,056	1,691,902	1,704,364	1,598,293
民生費	2,954,576	3,189,792	3,335,395	3,416,151	3,647,304	3,592,123	3,936,012
衛生費	745,610	753,724	739,567	730,698	794,635	797,231	805,347
労働費	65,327	25,427	9,233	5,139	3,050	3,050	1,105
農林水産事業費	180,356	183,101	161,249	240,075	235,271	250,486	263,707
商工費	62,777	52,519	124,684	63,984	63,383	56,606	106,264
土木費	1,355,973	1,247,120	1,243,602	934,309	1,139,713	933,846	973,959
消防費	521,737	525,374	532,822	580,244	823,111	530,389	613,807
教育費	1,016,016	1,040,150	957,250	1,033,765	1,148,197	1,041,750	1,080,046
公債費	634,702	699,213	672,220	700,894	715,063	748,641	748,996
合計	8,931,672	9,212,900	9,539,090	9,440,425	10,359,955	9,756,683	10,227,558

出典：総務省市町村決算カード

Ⅲ 住民意向

1 住民アンケート調査

(1) 調査概要

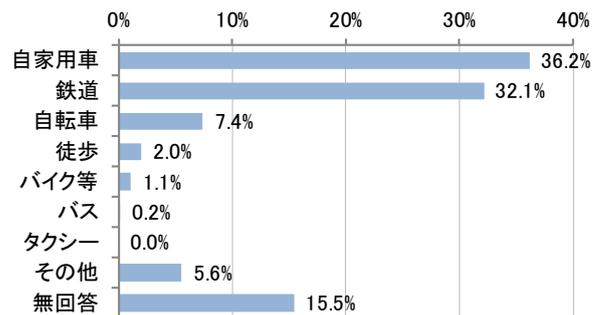
- 計画の策定にあたり、地区の現状や普段の生活スタイル、将来のまちづくりの方向性などについて、住民の皆様のご意見を広くお伺いするために、住民アンケート調査を実施しました。

調査地域	宮代町全域
調査対象	町内在住の16歳以上の男女2,000人（住民基本台帳より抽出） 町議会議員13人
調査方法	郵送配布・郵送回収（町議会議員は対面配布回収）
調査期間	令和元年（2019年）9月4日～10月30日
回収結果	有効回収数842票 回収率41.8%

(2) 調査結果概要

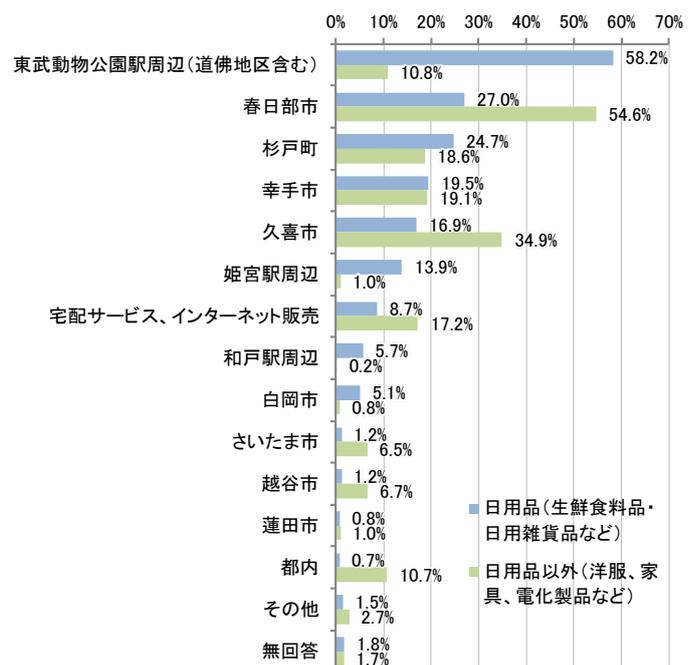
① 日常の移動手段

- 通勤・通学先等への日常の移動手段は、「自家用車」が36.2%で最も高いものの、町内に3つの鉄道駅を有する特性から、「鉄道」の利用も32.1%と高い水準となっています。



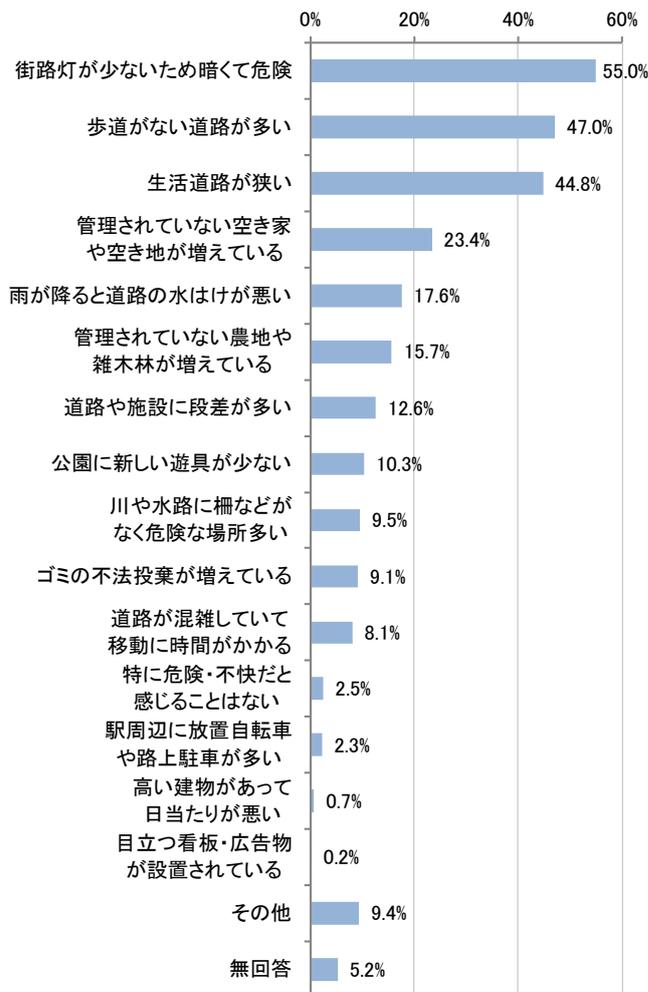
② 日常の生活圏

- 日用品の買い物の利用先は、「東武動物公園駅周辺（道佛地区含む）」の割合が58.2%と高い一方、日用品以外については町外、特に隣接する「春日部市」や「久喜市」の割合が高くなっています。
- 居住地区別にみると、和戸駅周辺地区では「久喜市」や「幸手市」、姫宮駅周辺地区では「春日部市」など、隣接する都市の利用割合が高くなっており、居住地区ごとに生活圏の違いがみられます。



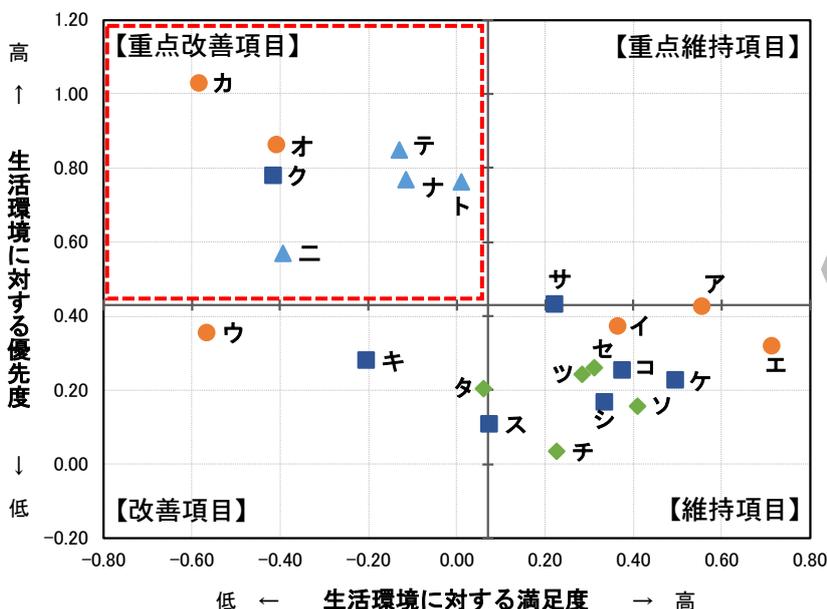
③ 日常的に危険・不快と感ずること

○ 生活していて、日常的に危険・不快と感ずることについてお聞きしたところ、「街路灯が少ないため暗くて危険」が55.0%と最も多く、次いで「歩道がない道路が多い」が47.0%、「生活道路が狭い」が44.8%と、身近な道路環境の管理・整備について、不十分と感ずている住民が多くみられます。



④ 生活環境の満足度・優先度

○ まちの生活環境について満足度と優先度をお聞きしたところ、満足度が低く優先度が高い重点改善項目として「オ. 買い物の便利さ」「カ. 医療・福祉施設の利用のしやすさ」「ク. 生活道路の整備」とともに、安全性に係る項目（テ～ニ）全てが挙げられています。



【利便性】

- ア. 通勤・通学のしやすさ
- イ. 自動車で移動のしやすさ
- ウ. バスの利用のしやすさ
- エ. 鉄道の利用のしやすさ
- オ. 買い物の便利さ
- カ. 医療・福祉施設の利用のしやすさ

【都市基盤】

- キ. 公園や広場などの遊び場
- ク. 生活道路の整備
- ケ. 上水道の状況(供給の安定性、おいしさ)
- コ. 下水道の整備
- サ. 学校など教育施設の整備
- シ. 図書館・公民館の整備
- ス. 運動・スポーツ施設の整備

【快適性・魅力】

- セ. 自然環境の保全・管理
- ソ. 自然的景観
- タ. 街並み景観
- チ. 歴史・文化資源の保全・活用
- ツ. 騒音・悪臭などの公害対策

【安全性】

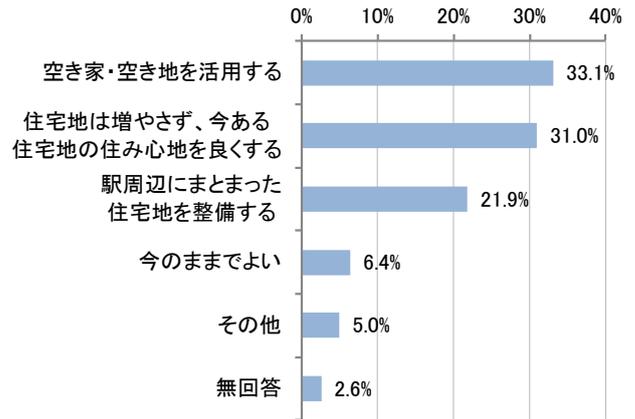
- テ. 交通安全対策
- ト. 自然災害に対する防災対策
- ナ. まちの防犯対策
- ニ. 空き家などの管理及び抑制対策

※赤枠内は「重点改善項目」

⑤ これからの土地利用のあり方

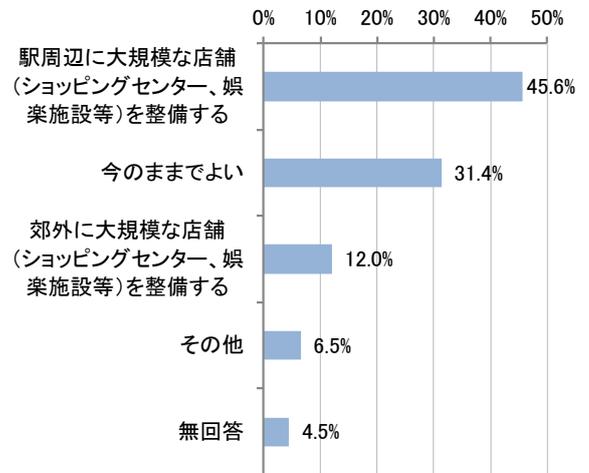
■ 住宅地のあり方

- 「空き家・空き地を活用する」や「住宅地は増やさず、今ある住宅地の住み心地を良くする」など、既存の住環境の改善・活用を求める割合が高くなっています。
- 「駅周辺にまとまった住宅地を整備する」も21.9%と、定住人口確保に向けた住宅地を希望する声もみられています。



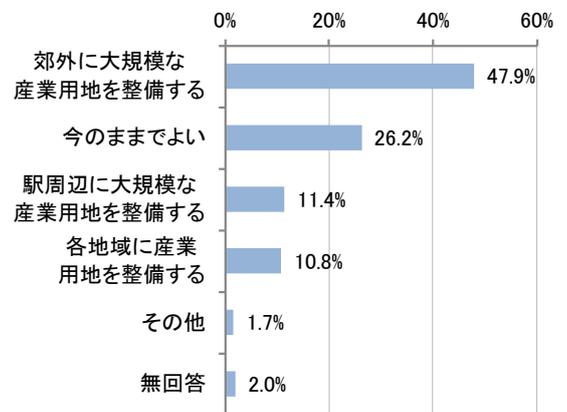
■ 商業地のあり方

- 「駅周辺に大規模な店舗（ショッピングセンター、娯楽施設等）を整備する」が45.6%と最も多く、町の拠点となる駅周辺での商業機能創出が期待されています。
- 「今のままでよい」も31.4%と高く、現状の商業環境に満足している住民や新たな商業地創出による居住環境への影響を懸念する住民も一定数みられます。



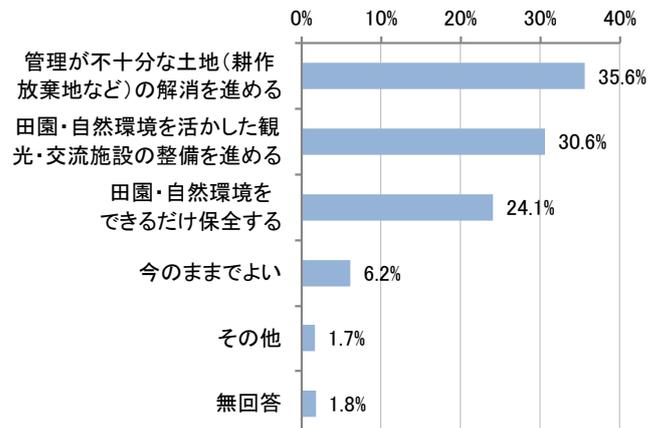
■ 産業用地のあり方

- 「郊外に大規模な産業用地を整備する」が47.9%と最も多く、居住環境への影響が少ない郊外部での整備を求める割合が高くなっています。
- 商業地と同じく、「今のままでよい」が26.2%を占めており、新たな産業用地の創出による居住環境への影響を懸念している住民が一定数みられます。



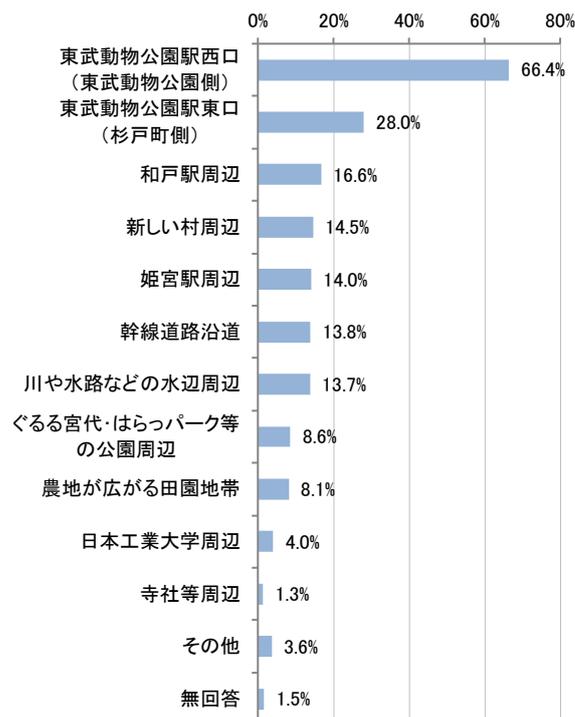
■ 田園・自然環境のあり方

- 「管理が不十分な土地（耕作放棄地など）の解消を進める」や「田園・自然環境を活かした観光・交流施設の整備を進める」など、自然資源の適正管理と更なる活用を求める割合が高くなっています。
- 「田園・自然環境をできるだけ保全する」も24.1%と高い割合を占めています。



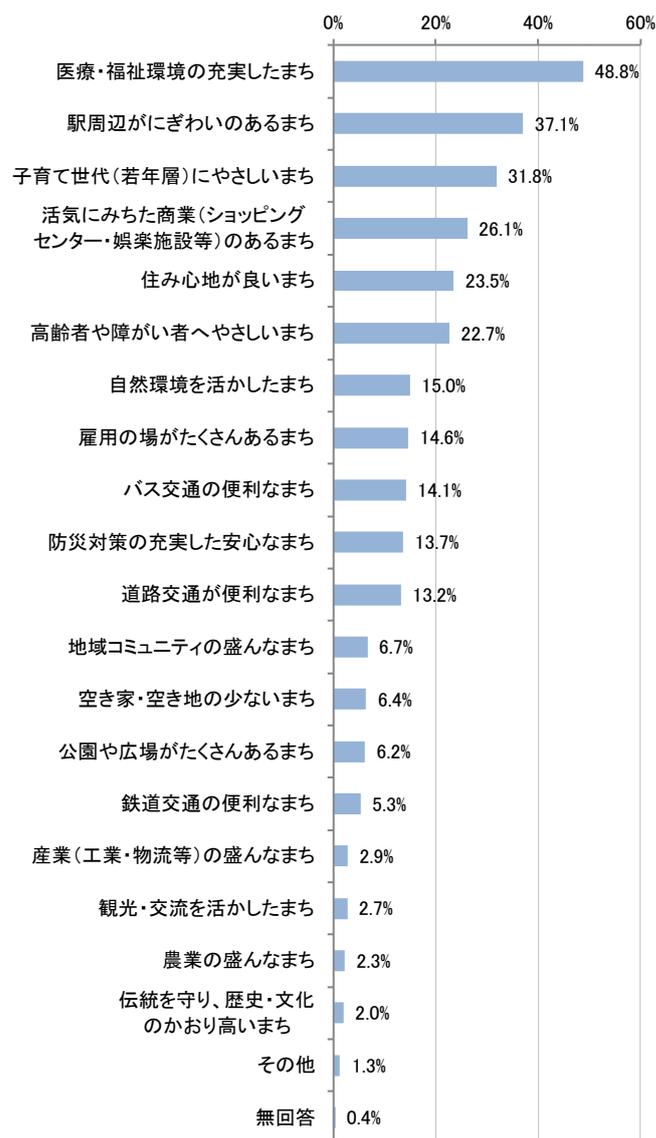
⑥ 魅力向上のために整備すべきエリア

- 宮代町の魅力向上のために、どのエリアを中心に整備すべきかをお聞きしたところ、「東武動物公園駅西口（東武動物公園側）」が66.4%と最も多く、土地区画整理事業によって整備された西口エリアでの新たな都市機能の整備・充実が期待されています。
- 都市計画道路の整備が進められている「東武動物公園駅東口（杉戸町側）」も28.0%と高い割合を占めています。
- 「和戸駅周辺」や「姫宮駅周辺」「新しい村周辺」など、鉄道駅や既存の交流施設周辺での一体的な機能向上も期待されています。



⑦ まちづくりを進めていくうえでの視点

- 宮代町が誰にとっても住みやすい、住み続けられるまちであるためには、これからどのような視点でまちづくりを進めていくべきかをお聞きしたところ、「医療・福祉環境の充実したまち」が48.8%と最も多く、高齢化への対応の視点に立ったまちづくりが期待されています。
- 次いで「駅周辺がにぎわいのあるまち」が37.1%、「子育て世代（若年層）にやさしいまち」が31.8%、「活気にみちた商業（ショッピングセンター・娯楽施設等）のあるまち」が26.1%となっています。子育て世代の転入が多い本町の特性から、若い世代が宮代町に住みたいと思えるような魅力的なまちづくりも求められています。



【参考】中学生アンケート調査

■ 調査概要

- 計画の策定にあたり、本町の将来を担う若い世代の意見を把握するため、町内の中学生を対象に、「まちづくりを進めていくうえでの視点」「これからの土地利用のあり方」「日常的に危険・不快と感ずること」「魅力向上のために整備すべきエリア」についてアンケート調査を実施しました。

調査地域	宮代町全域
調査対象	町内の中学生（須賀中学校、百間中学校、前原中学校）全学年
調査方法	学校ごとの配布・回収
調査期間	令和元年（2019年）9月18日～9月20日
回収結果	有効回収数 635票 回収率 89.4%

■ 中学生アンケート調査の特徴

- 中学生アンケートの調査結果をみると、土地利用のあり方や日常的に危険・不快と感ずること、魅力向上のために整備すべきエリアについては、住民アンケート調査と概ね同様の傾向が見られました。
- 一方で、まちづくりを進めていくうえでの視点については「住み心地が良いまち」が44.6%と最も多くなっており、身近な生活圏の環境が整った、暮らしやすいまちづくりが期待されています。また、「活気にみちた商業（ショッピングセンター・娯楽施設等）のあるまち」が39.7%、「駅周辺がにぎわいのあるまち」が30.2%と、にぎわいの創出を期待する声も多く挙がっています。

「まちづくりを進めていくうえでの視点」



2 宮代町まち歩き

(1) 開催概要

- 計画の策定にあたり、宮代町をより暮らしやすいまちにしていくために、住民の皆さんと一緒にまちを点検しながら、これからのまちづくりに求められる取組や方向性を一緒に考える機会として『宮代町まち歩き』を開催しました。

開催日時	令和元年（2019年）10月5日（土）9：00～16：00
調査対象地域	宮代町全域（東武動物公園駅周辺地区、和戸駅周辺地区、姫宮駅周辺地区）
参加者	15名
募集方法	・住民アンケート調査票に参加者募集のチラシと参加申込書を同封 ・自治会・市民団体などを通じた参加者募集
開催内容	・新たな視点で宮代町の魅力や課題を見つけるため、3グループ（東武動物公園駅周辺地区、和戸駅周辺地区、姫宮駅周辺地区）に分かれ、参加者の居住地区以外のまちを実際に歩いて点検。まち歩き後は、発見した魅力や課題などについてワークショップ形式でとりまとめ・発表



(2) まち歩きで挙げられた主なご意見

	東武動物公園駅周辺地区	和戸駅周辺地区	姫宮駅周辺地区
まちの魅力	<ul style="list-style-type: none"> 個人商店など隠れた観光資源が多数ある。 身代神社など歴史・文化資源がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一団で開発された住宅地は道路も広く、緑もあって環境がよい。 自然が残されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化を感じる景観を有している。 地域のコミュニティの繋がりが強い。
まちの課題	<ul style="list-style-type: none"> 大雨などで道路が冠水する。 既存の地域資源が住民に周知されていない。 駐車場が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 西側周辺が活用できていない。 東側周辺は交通量が多く、交通環境も悪い。 若い世代が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 土地が低いので水害の危険性が高い。 まちの賑わい不足 公園が少なく、河川沿いに遊歩道もない。
まちづくりのアイデア	<ul style="list-style-type: none"> 西口駅前を活用した新たな拠点づくり 東武動物公園と日本工業大学との連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> 西側周辺は住宅地として魅力的 移動販売の導入検討 ブロック塀から生垣へ。 	<ul style="list-style-type: none"> “農”との近さを活かした住環境形成 郊外での秩序ある開発を誘導する。
共通事項	<ul style="list-style-type: none"> 買い物できる場所が少なく、郊外の居住地では買い物が困難 空き家が気になるが、思ったより建て替えが進んでいる地区もみられた。 町内循環バスの運行本数を増やしてもらいたい。 区画整理などがされていない既存市街地の住宅地は、道路が狭く危険 		

Ⅳ まちづくりの主要課題と対応方向

本町の現状や住民意向から抽出された課題を踏まえ、本町を取り巻くまちづくりの主要課題とその解決に向けた対応方向を以下のように整理します。

町の活力創出に資する都市機能の活用と誘導

主要課題

- 商業施設の立地が限られており、商業活動が周辺都市に依存している状況です。住民の生活利便性や町の地域経済循環を高めるためにも、新たな商業機能の誘導が求められます。
- 住民意向では、商業地のあり方として「駅周辺に大規模な店舗を整備する」との意向が最も高く、これからの町の魅力向上のために中心に整備すべきエリアも「東武動物公園駅西口」が最も高くなっています。東武動物公園や日本工業大学などの拠点となる都市機能だけではなく、まちなかの身近な店舗など、魅力ある資源も多く有していることから、引き続き、既存都市機能の充実・活用による、まちの賑わいづくりが求められます。

対応方向

- 関係機関との連携を図りながら、本町の顔となる東武動物公園駅周辺において、住民が求める医療・福祉・商業など、新たな拠点的都市機能の誘導を目指します。
- 交通利便性の高い主要幹線道路沿道における、沿道型サービス施設の立地誘導を推進し、町内の商業環境の充実を目指します。
- 多様な主体との連携・協働を図りながら、町内に点在する多様な地域資源がネットワークされた、回遊性を促す市街地環境づくりを推進し、魅力向上と賑わいづくりを目指します。
- 鉄道駅周辺の市街化調整区域においては、そのポテンシャルを活かした活力創出に資する新たな土地利用の可能性を検討します。



東武動物公園駅西口



和戸駅周辺地区

誰もが安心・安全・快適に利用できる交通ネットワークの形成

主要課題

- 都心部や栃木・群馬方面への広域的なアクセスとなる鉄道網や道路網を有していますが、交通結節点となる鉄道駅と居住地を繋ぐ道路網やバス網のネットワークが十分とは言えず、更なる利便性の向上が求められます。
- 住民意向では「歩道がない道路が多い」「生活道路が狭い」など、身近な歩行環境が日常的な課題として挙げられており、対応が求められています。

対応方向

- 町内のネットワーク強化に向けて、引き続き、関係機関との連携・協働を図りながら、都市計画道路の計画的な整備を目指します。
- 住民の高齢化を見据え、自家用車に頼らなくても目的地まで円滑な移動が可能となるように、循環バスの活用やデマンド交通などの導入を検討し、持続可能で利便性の高い公共交通網の構築を目指します。
- 子どもから高齢者、障がいのある方まで、誰もが安心・安全に利用できる歩行環境の管理・整備を目指します。

安心・安全な暮らしを支える防災・防犯のまちづくり

主要課題

- 大落古利根川をはじめ、町内に多くの河川が流れる本町においては、大雨などによる浸水被害が多く発生しています。近年では、台風や豪雨など自然災害も激甚化しており、住民の安心・安全な暮らしを守るためにも、自然災害に対する対応の充実が求められます。
- 住民意向では、「自然災害に対する防災対策」をはじめ、「交通安全対策」「まちの防犯対策」「空き家などの管理及び抑制対策」といった安全性に係る項目については、満足度が低く優先度が高い項目として挙げられており、防災・防犯対策の充実が求められています。

対応方向

- 誰もが安心・安全な暮らしを送ることができるよう、ハード・ソフト両面から、防災・防犯に向けた取組を強化し、防災・防犯のまちづくりを目指します。
- 関係機関との連携を図りながら、河川改修・整備の促進や市街地内の排水施設の適正管理などを推進し、水害の防止・抑制を目指します。
- 誰もが安心・安全に通行することができる道路交通環境の整備に取り組み、関係機関や住民など、多様な主体との連携・協働のもと、総合的な交通事故防止を目指します。

既存住宅地の“質”の確保・向上

主要課題

- 宮代台、学園台、姫宮南・北、桃山台など、大規模な宅地開発によって、市街化区域や一部の市街化調整区域において計画的な住宅地が形成されています。人口減少社会を迎えた中で、既存住宅地の空洞化による、まちの魅力や利便性の低下も懸念されることから、持続可能な都市として市街地の人口密度を確保していくためにも、住民が将来にわたって宮代町で暮らしたいと感じられるような“質”の高い居住環境づくりが求められます。
- これからの住宅地のあり方に係る住民意向でも、「住宅地は増やさず、今ある住宅地の住み心地を良くする」「空き家・空き地を活用する」といった意向が高く、既存の居住環境の改善が求められています。

対応方向

- 地区計画制度を活用し、隣地・道路との距離や敷地面積の最低限度を定めるなど、住民との連携・協働のもとで地区の実情に応じたルールを定め、居住環境の維持・改善を目指します。
- 安心・安全な居住地の確保に向けて、防火地域・準防火地域の指定など、既存住宅地の不燃化促進による燃えにくいまちづくりを目指します。
- 増加が見込まれる空き家・空き地については、その適切な管理・活用に向けた対策を講じ、様々な活動の場としての活用を目指します。

“農”の管理・保全・活用

主要課題

- 本町に広がる郊外の田園地帯は、町の農業生産を支えるとともに、観光資源としての活用や魅力ある景観の形成、防災機能の発揮など、多面的な役割を果たしていますが、近年では農業従事者の担い手不足や耕作放棄地の増加などが進行しており、農業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。
- 住民意向でも、本町の自然環境や自然景観に対する満足度は高いことから、引き続き、良好な環境の保全と適正な管理が求められます。

対応方向

- 住民や事業者など、多様な主体との連携・協働のもと、郊外の農地や平地林などの田園環境の管理・保全・活用を図りながら、「農」の資源を活かしたまちづくりを目指します。
- 優良農地については、関係法令の適正運用による管理・保全を図るとともに、基盤整備や農業法人を含めた多様な担い手の確保など、ハード・ソフトの一体的な取組による持続可能な営農環境の形成を目指します。
- 市街地内の農地については、潤いを与える貴重な緑空間として、周辺の居住環境と調和した管理・保全を図り、メリハリのある土地利用を目指します。